

<令和 5 年度・やまなみ工房 まとめ>

1) やまなみ工房の一年

やまなみ工房は現在（令和 6 年 3 月 31 日）障害者多機能型事業所定員 80 名（就労継続支援 B 型・定員 25 名・現員 30 名、生活介護・定員 55 名・現員 63 名）として 93 名の利用者が在籍している。年度途中、退所者 5 名（死去 1 名、入院 2 名、他施設移行 2 名）があり、また令和 6 年度においては新たに 3 名の受け入れが決定している。

令和 5 年度における利用者 93 名の事業別内訳においては現在就労 B 型に 30 名、生活介護に 63 名が在籍し、今年度も 3 班に分かれ個々の特性やニーズをもとにそれぞれ安定した活動を行った。出勤数においては年間 1 日当たりの利用者数は就労継続支援 B 型が 92.4% で 23.1 人（昨年 22.7 人）、生活介護が 95.3% で 52.4 人（48.2 人）となり平均 75.5（昨年 71 人、一昨年 70 名）となった。現在定員 80 名、制度上一日当たりの利用者受け入れは 100 人まで可能。他施設やゆとりあとの併用利用、また本人の体調を考慮した出勤形態をとる方もいるが、一日約 20 名の欠勤者が見られたため、次年度以降は長期欠勤者等にも配慮した支援が求められる。令和 6 年度においては 3 名新規入所者が増えることから一日当たりの出勤者数は微増となる見込み。しかし他の利用者の高齢化や生活基盤の将来的不安から他施設への移行等退所傾向も予測できるため、更なるニーズに応えるためにも今後職員体制や給食及び送迎対応等整備しなくてはならない。

93 名の利用者においては今年度においても、連絡・調整を常に全体において円滑に行い、利用者の健康と安全を第一に、利用者とその家族の実態に適した包括的な支援の向上、一人ひとりの意思及び人格を尊重し、安心できる時間と空間の中で「明るく・温かく・楽しく」生活ができるよう創意工夫を凝らし、心身ともに豊かな人間性溢れる支援、個々の立場に立った適切な支援と就労保障を行った。

また、日常の支援においては引き続き感染症対策に力を入れ、厚生労働省のガイドラインをもとに継続して取り組んでいる日々の対策を持続させ、万全の職員体制と環境対策を維持した。

一方、全国各地から問い合わせをいただいた見学者の受け入れについては利用者の健康を優先しつつ受け入れを緩和し対応した。

開設 4 年が経過したカフェにおいては年間を通し通常営業をおこない利用も安定している。次年度は各行事、アートセンターを利用した新たな表現活動（パフォーマンス等）や余暇支援の取り組みを本格的に実施したい。

昨年 NHK E テレ（ハートネット TV）での特集をはじめ、内閣府が制作したやまなみ工房の番組は国内にとどまらず世界で大きな注目を集めたほか、小学校の教科書に掲載されるなど新聞、ラジオ、雑誌、ネット等においては多数取り上げられたが、その結果、たねや

をはじめとしたさまざまな企業とのコラボレーション、国立滋賀大学との業務提携、海外での展覧会開催等、福祉関係者のみならず社会において幅広く新たな試みの実現し、新たなネットワークの広がりから、各方面や分野において芸術を軸とした仕事の開拓や事業へと繋がった。

また甲賀市もアールブリュット魅力発信事業においては市とタイアップし「めばえ movement」を開催し、市内の幼稚園や保育園、幼い子どもたちを対象にしたファミリー向けコンサートをあいこうか市民ホールで開催するなど大きな成果に繋がった。今後も甲賀市をはじめ多様で幅広い世代間との貴重なコミュニティーの場となるよう様々な団体や個人との交流を通じて障害者への理解を深めたい。

2) 施設財政

令和 5 年度においては年度当初利用者数の増加に伴い、事業活動収入合計が昨年の 169,162,716 円から過去最も高い 181,700,249 円となり、昨年度と比較すると 12,537,533 円の増となり昨年分と合わせ 19,736,660 円の繰り越しとなり、その結果にここ 2 年間は安定している。一方、支出においては対外的な事業も増え、昨年と比較すると微増ではあるが各実績の成果も伴い良い傾向である。

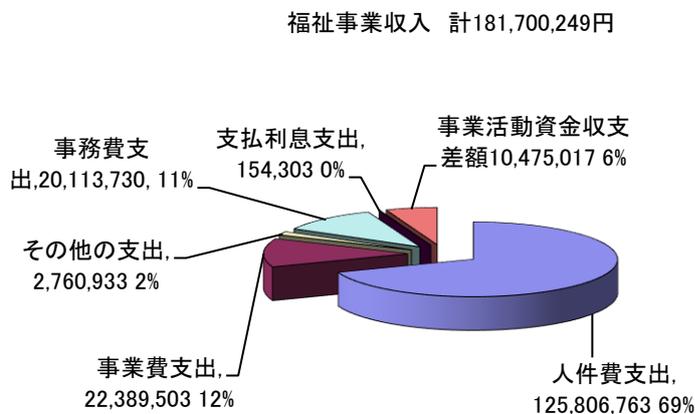
今年度もやまなみ工房においてはアートセンター建設の残務支払いはあるものの大規模な施設内整備は行わず、利用者増に伴いマイクロバス 1 台の購入を行った。また展覧会やイベント開催などへの参加も増えてきているものの出費は最小限に抑えた。昨年と比較し事務費については 20,113,730 円となり昨年の 18,107,921 円と比較すると 2,005,809 円増（昨年、2,288,188 円増）になっている。コロナの影響を受けた 3 年前から比較すると 2 年間で約 5,000,000 円の増となっているが 4 年前の事務費と比較するとほぼ同額となる。引き続きカフェ運営やイベント開催等新たな事業と合わせ、これまで継続して開催している PR-y や甲賀市との共同事業等様々な企画については、引き続き積極的に行い、今後も同様の支出を計画的に必要経費として考えたい。

人件費においては今年度 125,806,763 円となり昨年の 118,041,777 円から 7,764,986 円（昨年 3,344,105 円）の増額となった。このことは職員の増員と合わせ定期昇給や各種手当の見直しを行ったことが影響している。全体収益に対する比率は 69%（昨年 70%、一昨年 72%）となっている。次年度より 3 名の利用者が増となるが生活介護においては厳しい報酬改定が予想され抜本的な改革と対応が求められる。今後も重度障害者の支援に伴うマンパワーの確保等、長期欠勤者の通所再開や新規利用者の受け入れを積極的に行いたい。以降においても、職員には働き方改革の推進とともに安定した処遇改善を図りたい。

図 1) 福祉事業活動による収支

科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費支出	112,187,909円	114,697,672円	118,041,777円	125,806,763円
事務費支出	19,647,470円	15,819,733円	18,107,921円	20,113,730円
事業費支出	24,469,934円	20,420,143円	21,045,278円	22,389,503円
支払利息支出	161,405円	181,172円	169,587円	154,303円
その他の支出	2,004,252円	2,242,190円	2,536,510円	2,760,933円
事業活動収入計	167,643,675円	159,930,786円	169,162,716円	181,700,249円
事業活動資金収支差額	9,172,705円	6,569,876円	9,261,643円	10,475,017円

図 1) 福祉的事業支出の内訳と比率



■人件費支出 ■事業費支出 □その他の支出 □事務費支出 ■支払い利息支出 ■事業活動資金収支差額

3) 利用者状況

令和6年3月31日現在、利用契約者数は93名（昨年90名、一昨年89名）となり就労B型・定員25名に30名、生活介護・定員55名に63名が在籍し、それぞれにニーズに応じた支援を行っている。1年間の開所日数は昨年同様247日（一昨年243日）となり年間を通した定員に対する平均利用者数は、生活介護95.3%（昨年87.6%）、就労B型92.4（昨年90.8%）となっている。昨年度より生活介護の定員が40人から55人、B型の定員が20名から25名に増員したことで計算式の分母が変更となったため利用率が100%に満たない結果となっているが、実際の利用者人数は昨年、一昨年の一日平均70人より増となり75.5人が一日平均で通所している。ただ毎年利用者数が増えているにもかかわらず出勤者数がここ3年間において大幅に変化がないことに対しては加齢や体調による長期欠勤者が増えている。次年度においては積極的に出勤を促し、更に出勤率を一日当たり85人にまで上げる対策を講じなければならない。

やまなみ工房の利用者の障害程度区分においては、区分1が1名、区分2が4名（昨年3名）、区分3が9名（昨年14名）、区分4が22名（昨年18名）、区分5が26名（昨年23名）、区分6が16名（昨年14名）、区分なし15名（昨年17名）の計93名となり区分なしの15人を除けば平均程度区分は4.9（昨年4.4、一昨年4）となりここ数年で重度判定の利用者が更に増となり強度行動障害等支援度も高くマンツーマン対応が必要になるなど支援度の高い利用者が増えている。

一方年代比率は10代4名（昨年3名）、20代38名（昨年35名）、30代22名（昨年20名）、40代16名（昨年18名）、50代12名（昨年11名）、60代0名（昨年2名）、70歳以上1名（昨年1名）となり平均年齢は30歳（昨年35歳）である。

男女比率は男性56名（昨年54名）、女性37名（昨年36名）、一部の利用者は高齢化に伴い特別な支援を必要とするが全般的には比較的若年齢で概ね健康的である。しかし生活の基盤を高齢の親が担う事例が多く、そのため、親に介護が必要になったり、亡くなったりすると支援内容を大幅に変更せざるを得なくなり、利用者本人の生活が一変して立ち行かなくなってしまう可能性も懸念される。更には障害の重度化に伴い生活の拠点を入所施設に移行を検討せざるを得ない利用者や、早急にグループホームに入所を希望するという利用者が複数待機している状況である。今後も保護者の高齢化等、家族の見守りにおける家庭内での生活がさらに困難な状況が心配される利用者が推定で全体の30%前後いるため、利用者のみならず家族を対象にした包括的な対応はもちろん生活の拠点を確保しなければ継続した通所や施設経営が困難となる。

地域別で見ると甲賀市からは61名が通所し、湖南市から14名、草津市から4名、大津市から4名、栗東市から1名、三重県より6名、その他、長浜や京都、兵庫よりそれぞれ1名となっている。個々の支援の内容についてはモニタリングによる支援計画を作成し年2回

の面談を全ての利用者、家族と行いニーズの確認を行った。その他日々の連絡帳での確認や健康チェック等行うほか、必要に応じ調整会議等適時行った。

昨年に引き続き健康状態について徹底し情報収集と感染予防を行った。今後も更なる支援サービスが必要に応じて受けられるよう慎重に対応し介護者を含め利用者一人ひとりが生きがいをもって健康且つ安全で安心できる豊かな日常が送れるよう徹底し、家庭との連携や疎通をより密接に行うこととする。また、利用者や家族の権利を正しく保障するため権利擁護事業や後見人制度の周知、苦情解決委員会の存在や苦情解決に係る要綱の周知を徹底し、常に些細な事においても意見や質問が出しやすいよう配慮し連携を深めたい。

図2) 生活介護 出勤率 年間平均 95.3% (昨年 87.6%) 1日平均 52.4人 (昨年 48.2人)



図3) 就労継続B型 出勤率 年間平均 92.4% (昨年 90.8%) 1日平均 23.1人 (昨年 22.7人)

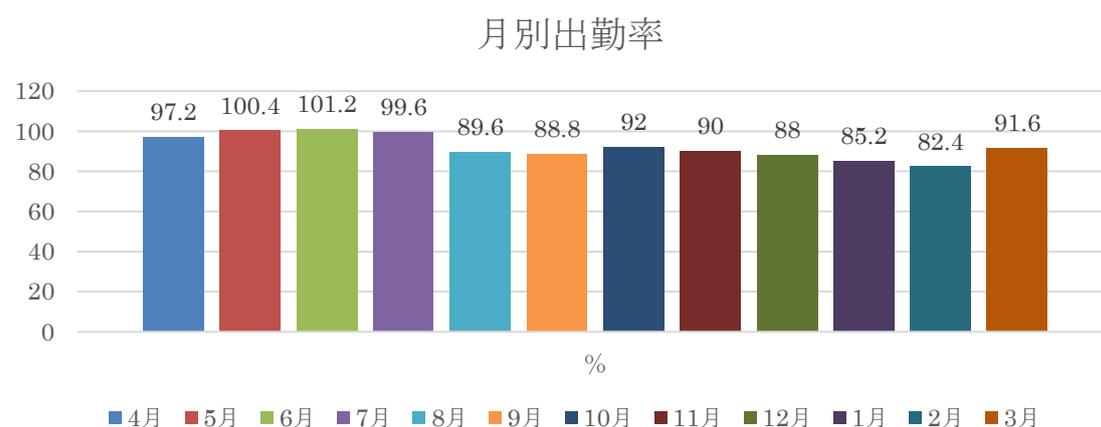


図 4) 年代別・利用者比率 (平均年齢 30 歳)

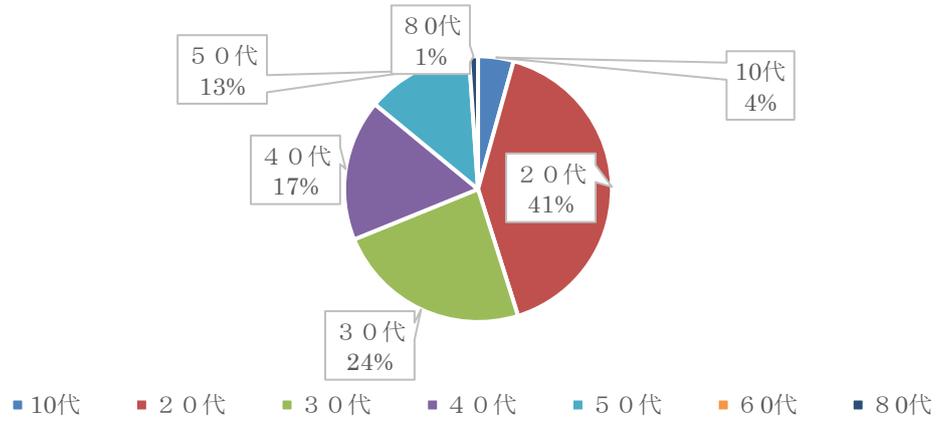


図 5) 男女別・利用者比率

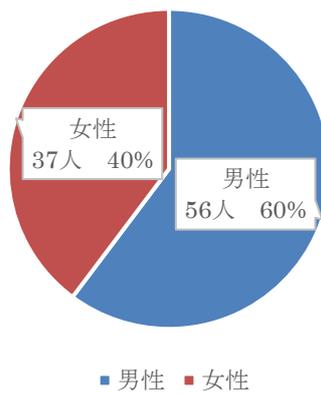


図 6) 地域別利用者

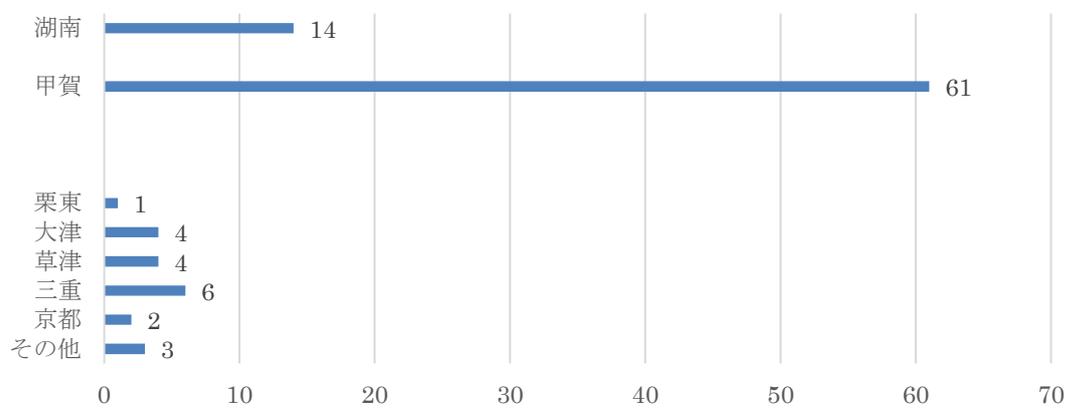
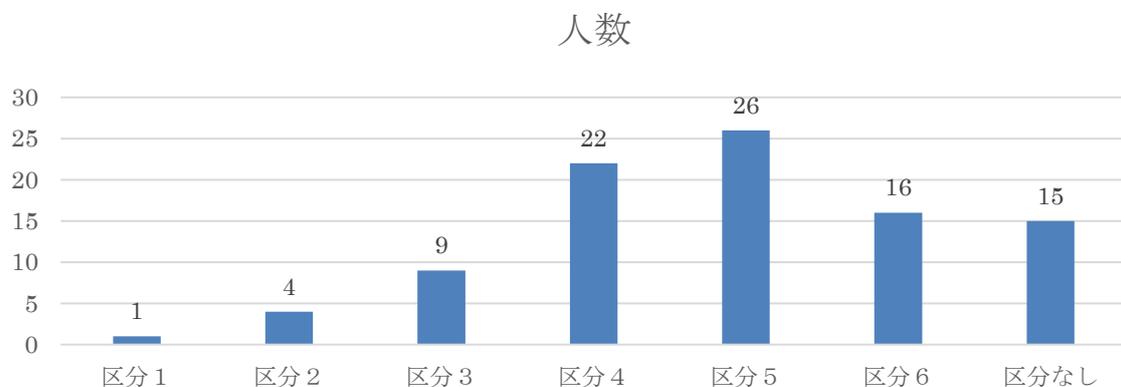


図 7) 利用者障害者支援区分 平均区分 4.9 (昨年 4.4)



4) 授産活動

今年度においても作品販売・展覧会等、メンテナンス事業、カフェ業務、自動販売機事業、見学者受け入れによる収益は大幅な増収となった。今年度収益 45,019,430 円は過去最高となり昨年の 34,152,245 円を大幅に上回った。特に令和 2 年と比較すると 20,000,000 円増、約 200%の増額となりアートセンター設立以降、様々な施策の成果は出ている。

今後はカフェによる更なる収益増、LIVE 事業をはじめ活動を自粛していた事業等行い更なる工賃向上を目指したい。

引き続き今年度においても甲賀市からの受託事業収益があり積極的に取り組んだ。引き続き次年度も地域貢献事業として、収益だけに着目するのではなく幅広く障害福祉への理解の深まりを目指したい。

今後も積極的な展覧会の開催、また新たなグッズ制作による販売促進やレンタルアート、自動販売機事業の拡大など利用者の安全を確保するとともに効率的に安定した収益増を目指し、計画的に利用者の工賃向上を達成する。また就労支援事業の繰越金をもとに新たな写真集制作を検討し国内外に発信するとともに販売収益を工賃に充てる。

結果的に年間 45,019,430 円の収入に対し支出の総額は 40,525,957 円となった。主な支出は利用者の著作権料や原材料費等による諸経費であり、支出が昨年より増額になっているのは高額販売に伴う特定の利用者工賃支給によるものである。このことにより今年度の当期繰越金額は 4,493,473 円となる。現在授産収益の繰り越しは累計で 36,776,307 円となり内、工賃変動積立金は 7,684,451 円となる。このことから来年度利用者の賞与や工賃向上、並びに授産事業拡大に向けた写真集制作について計画的用途を明確にしたい。

●令和4年授産収入一覧

項目	令和2年度収入	令和3年度収入	令和4年度収入	令和5年度収入
作品販売、展覧会等	12,293,192 円	12,922,611 円	25,600,150 円	33,965,721 円
古紙回収、キャップ回収	340,923 円	242,160 円	195,060 円	146,831 円
メンテナンス	1,172,354 円	752,339 円	738,905 円	827,343 円
自動販売機	696,994 円	907,194 円	955,955 円	1,329,537 円
仏花・洗車	168,400 円	0 円	0 円	0 円
カフェ	3,099,931 円	2,451,710 円	2,355,575 円	3,013,065 円
見学料(4~11月)	260,774 円	116,500 円	601,000 円	1,274,101 円
Tシャツ、トートバック	1,354,602 円	2,482,601 円	1,423,700 円	965,700 円
LIVE 事業	0 円	0 円	0 円	0 円
ガチャガチャ	22,800 円	128,620 円	32,220 円	25,800 円
グッズ/ショップ	1,231,309 円	1,035,736 円	1,240,413 円	2,149,074 円
ATM 清掃/LINE	17,815 円	16,280 円	14,193 円	0 円
物資	415,570 円	604,980 円	593,770 円	601,470 円
その他	2,483,000 円	5,953,069 円	401,304 円	720,788 円
合計	23,557,664 円	27,613,800 円	34,152,245 円	45,019,430 円

5) 利用者工賃

利用者の工賃においては、それぞれ生活介護及び就労継続支援 B 型の事業別によるやまなみ工房給与規程に基づき支給した。現在の月給工賃平均支給額は一人当たり生活介護が 3,000 円から 8,000 円の支給により約 5,230 円(昨年 5,061 円)、B 型が 3,000 円から 8,000 円の支給により 5,652 円(昨年 5,611 円)、全体平均については 5,312 円(昨年 5,855 円)となった。ただし平均支給額は併用利用による日払いの利用者も含んだ結果である。過去 5 年を経て一人当たりの月給は約 2,000 円昇給しているが現在の状況は全く十分な支給額ではなく今後最低でも全国平均(B 型 13,000 円程度)は月額保証し、生活介護においても現在の 2 倍の工賃を保証しなければならない。

尚、利用者には賞与を少額ではあるが増額し夏 5,000 円、冬 15,000 円、年度末手当 15,000 円を支給した。

引き続き作家別著作権料については毎年契約更新をしている著作権規定に基づき支給した。内訳については現在他団体から個人に支払われる作品売り上げや出展謝金及び作品の使用料収入の 70%を月給と別途本人支給し、工賃の支給額最高は 10,655,800 円(昨年 7,105,500 円)となっている。また今年度は工賃年収合計、5 万円未満が 13 人(併用利用や

長期欠勤者等)、10万円未満が18人、20万円未満の利用者は37人、30万円未満が14人、50万円未満が9人、100万円以上が7人、500万円以上は1人となり年間の平均工賃額は大幅に向上しているが一部の利用者の水準が高く今後全体的なベースアップが責務である。

来年度においても利用者の日常のペースに配慮しながら、状況に応じた様々な活動を展開する他、新たな事業を検討し更に収益を上げ、利用者の工賃倍増を目標に取り組みたい。

6) 施設の充実について

昨年に引き続き、今年度も送迎バスの老朽化と利用者増に伴いマイクロバスを一台購入した。その他においては一部厨房機器の修理等行ったが、従来の施設環境において問題なく機能した。

引き続き室内外については徹底した感染症予防対策を講じ、また日頃より整理整頓を行い、安全と衛生面において問題が発生しないよう常に環境整備に努め、利用者が安心安全の中、快適に活動が出来るよう努めた。

7) 社会参加・地域交流事業

今年度においても LIVE 事業やワークショップは引き続き開催が出来なかった。

その他やまなみ会通信(年4回、郵送5,000部(関係団体・個人)、甲南町自治会回覧版)の発行は内容を充実させ引き続き購読者も増え好評を得ている。今年も新聞、雑誌、テレビの取材や WEB マガジン等をはじめとした掲載や様々な団体や行政の機関紙等で利用者の活動が多く取り上げられたことは地域や関係者のみならず全国的に理解へと繋がっている。

またオーストラリア、アメリカをはじめとした海外との交流、国立滋賀大学との業務提携、たねやをはじめとした有名企業とのコラボ等様々な団体との連携が活発な一年であった。

引き続きメンテナンス事業は重要な活動として継続するが、古紙回収事業は業務を縮小し今後利用者により適した活動内容を検討したい。

また教育関係者や行政をはじめとした各種団体、全国の福祉関係者によるセミナーや映画上映会の開催等においては積極的に参加している。作品やグッズ販売をはじめ注目も高く今後の社会情勢に応じ予防策を徹底しながら積極的に取り組みたい。甲賀市から委託を受けた事業「めばえ movement」や看板作成、ふるさと納税の thanks カード制作等については地域住民をはじめとした多くの方々との貴重な交流の場となった。

図 11) 令和4年展覧会開催報告

令和4年度・展覧会内容

展覧会名	開催場所	期日
常設展 特集展示「川内倫子と滋賀」	大津 滋賀県立美術館 展示室2	2023.1.11-5.7
「やまなみ工房 KATSU・小川翔陽」展	長浜市 湖のスコアレギャラリー	2023.3.29-7.2
TRUNK(HOTEL) YOYOGI PARK	TRUNK(HOTEL) YOYOGI PARK	2023.8~
「Long Time No See 好久不見！久しぶり！展」	やまなみ工房ギャラリー g u f g u f	2023.4.4-4.28
こども基地 arika トークイベント作品展示	兵庫県 武庫西生涯学習プラザ	2023.4.23
『対話するアート展』vol.1	神奈川県 アール・ド・ヴィーヴルギャラリー	2023.5.1-5.26
「BAD+ contem porary Art and Design Fair」	フランス ボルドー	2023.5.5-5.7
ArtWharfKOBÉ Presents 駅前フェス！	@JR 三ノ宮駅前 & 3 P A R K	2023.5.6
「ふれるとプロジェクトーいろんな好きに出会えたー」	甲賀市市役所 1 F 展示スペース	2023.5.15-5.31
「irodori〜障害者のアートで浜松に彩りを〜」展	静岡県 イオンモール浜松市野店	2023.5.17-5.21
ART IN YOU アートはあなたの中にある	東京都 三井住友銀行東館 1 階 アース・ガーデン	2023.5.20-6.17
鶴飼結一郎 作品集出版記念パーティー 展示	兵庫県芦屋市山手町 丸川蔵	2023.6.18
「やまなみ工房 中尾涼」展	長浜市 湖のスコアレギャラリー	2023.7.5-10.9
「THE WORLD」A place where “No Concept” is allowed	東京都 G Y R E G A L L E R Y	2023.7.15-8.27
「モノクローム 描くこと」	東京都渋谷公園通りギャラリー	2023.7.22-9.24
「物語ることも、物語らないことも、物語れないことも」	福島県 はじまりの美術館	2023.7.29-10.9
「並行世界の歩き方 上土橋勇樹と戸谷誠」	滋賀県 ボーダレス・アートミュージアム NO-MA	2023.7.29-9.18
D I S T O R T I O N 3 2 0 2 4 S S	京都市 しまだいギャラリー	2023.8.19-8.20
関係するアート展 vol. 3 〜心が震えるほど衝動を感じたことはありますか？〜	佐賀県 佐賀県立博物館	2023.8.22-10.12
令和5年度 滋賀の福祉の現場から生まれた造形の魅力発信事業	滋賀県大津市 里湯昔話 雄山荘	2023.8.30 2024.3.20

「いま、気になる」あの人の表現	神奈川県 CREATIVE GALLERY	2023.9.1-9.29
Let's Groove!!	大阪市 阪急百貨店梅田5Fフロア トステージ51	2023.9.9-10.3
TRAVEL to 滋賀に生きる造形 vol.2 岩村遠×吉田陸人	滋賀県立美術館ロビー特設エリア	2023.9.12-2024.6.1
KOKA23 甲賀じんけんフェスタ	あいこうか市民ホール展示室	2023.9.16
「ディアストーリーズ ものがたり かたりあう」巡回展	東京都 すみだリバーサイド・ホールギャラリー	2023.9.24-10.4
「やまなみ×おとさぼ アール・ブリュット展 Quintet! vol.4」～絵と刺繍の展覧会～	滋賀大学教育学部 音楽棟「ギャラリーおとさぼ」	2023.9.26-12.7
「超老芸術展」遅咲きのトップランナー大暴走!	静岡県 グランシップ6階展示ギャラリー	2023.10.3-10.8
ココまでキタ!! 表現活動支援の「いま」	神奈川県 CREATIVE GALLERY	2023.10.4-10.31
「やまなみ工房 田村拓也」展	長浜市 湖のスコレギャラリー	2023.10.11-12.18
「TSUNAGU MARKET」	大阪市 高島屋大阪店7階催会場	2023.10.12-10.16
「ディアストーリーズ ものがたり かたりあう」巡回展	東京都渋谷公園通りギャラリー	2023.10.21-12.24
障害者アートフェア東アジア文化都市記念「招待作家展」君こそスターだ! 時代を彩る表現者たち	静岡県立美術館 県民ギャラリーA	2023.10.25-11.5
第10回プラザアートフェスティバル guest ART museum	兵庫県 堺市立健康福祉プラザ	2023.10.26-10.29
ART WEEK TOKYO	東京都 港区虎ノ門 大倉集古館	2023.11.2-11.5
FEELSEEN KOBE 2nd anniversary 展示	兵庫県神戸市 FEELSEEN KOBE	2023.11.4-11.30
甲賀市 希望ヶ丘文化祭展示	滋賀県甲南町 希望ヶ丘地域市民センター	2023.11.3-11.5
私的自由秩序基礎練習2 山田那美×宮下幸士展	神奈川県横浜市 GOOZEN	2023.11.8-11.30
アントワープ CRAFLXX Festival	ベルギー	2023.11.16-11.19
Yuichiro Ukai 個展	ニューヨーク Venus Over Manhattan	2023.11.17 - 2024.1.13
「アール・ブリュット みたか 2023 オータム」	東京都 三鷹市美術ギャラリー	2023.11.22-11.26

2023年度「CONNECET⇔アートでうずうず つながる世界」	京都市 京都国立近代美術館	2023.12.1-12.17
「脈打つアート展 Vol.2」やまなみ工房 第一部	兵庫県神戸市 FEELSEEN KOBE ギャラリー	2023.12.1-12.29
教室はミュージアム（ふれるとプロジェクト）	甲賀市 貴生川小学校 1階多目的室	2023.12.5-12.6
交差するイメージ 文学とアート	京都市 龍谷大学大宮キャンパス本館 1階展示室	2023.12.11-12.22
異彩の軌跡展 with ヘラルボニー	東京都 ITOCHU SDG s STUDIO GALLERY	2023.12.12 - 2024.1.31
やまなみ工房『山と湖』展 Vol.2	長浜市 湖のスコレギャラリー	2023.12.20 - 2024.3.31
「脈打つアート展 Vol.2」やまなみ工房 第二部	兵庫県神戸市 FEELSEEN KOBE ギャラリー	2024.1.5-1.30
関西フィルハーモニー やまなみ工房作品展 ～アール・ブリュットの世界へようこそ～	甲賀市 あいこうか市民ホール 展示室	2024.1.13-1.28
ヘラルボニーと気仙沼ニッティング 巡回展	東京都 TOBICHI 東京	2024.1.18-1.28
「ディアストーリーズ ものがたり かたりあう」巡回展	東京都 立川市たましん RISURU ホール展示室	2024.1.24-2.7
滋賀大学×やまなみ工房アール・ブリュット展 ～湧き上がる創造性が結実する場とは？～	彦根市 滋賀大学彦根キャンパス講堂	2024.1.31-2.9
令和5年度 アール・ブリュット魅力発信事業 めばえムーブメント すてきなみらいみつけた！	甲賀市 あいこうか市民ホール	2024.2.17
NAKANO 街中まるごと美術館 アール・ブリュット展 つむぐカタチ、ひろがるキモチ。	東京都 なかの ZERO 本館 地下2階展示ギャラリー	2024.2.3-2.18
共棲の間合いー「確かさ」と共に生きるにはー	東京都渋谷公園通りギャラリー	2024.2.10-5.12
ヘラルボニーと気仙沼ニッティング 巡回展	岩手県盛岡市 ヘラルボニーギャラリー	2024.2.10-3.3
A R I S I N G I N T H E E A S T 東よりきたる	西オーストラリア パース DADAA Fremantle Gallery	2024.2.11-4.20
O u t s i d e r A r t F a i r 2 0 2 4	ニューヨーク Metropolitan Pavilion	2024.2.29-3.3
ヘラルボニーと気仙沼ニッティング 巡回展	宮城県 気仙沼ニッティング本店	2024.3.9-3.30

borderline	滋賀県 ホーダレス・アートミュージアム NO-MA	2024.3.9-6.16
アビゲイル&やまなみ工房合同展	やまなみ工房ギャラリー g u f g u f	2024.3.4-3.22

2、エイブルアート・カンパニー 現在3名(三井啓吾、川邊紘子、神山亜津美) 登録作家
・アオトプラス(株)ステーションナリーブランド「カミディア」紙付箋のデザイン 神山亜津美

・女子美術大学ヒーリング表現領域特任准教授 野呂田理恵子オンライン授業内データ使用 神山亜津美

・HABA顧客配布用冊子「2024 美術手帖ホロスコープ」 神山亜津美 イラスト書下ろし

・全国労働金庫協会「第101回国際協同組合デー記念中央大会」周知ポスター 7/3 神山亜津美

・一般社団法人フクワライ アートレンタル 神山亜津美

・トヨタ自動車 以前の書下ろし2作品の2024パラスポーツ大会コースター・メモ帳 川邊紘子

3、<その他特筆すべき事柄>

■作品調査

櫛野氏 井上

■冊子等掲載

・台湾韓国中国 『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』の翻訳の本 酒井

・読売新聞東京本社 6月12日掲載

・神戸大学大学院人間発達環境学研究所 冊子 岡元

・ふるさと納税記事 11月7日京都新聞掲載

・ふるさと納税記事 11月7日朝日新聞掲載

■番組放送

・岩手日報社・日刊新聞と同社のWEBサイト「滋賀のアーティストたち」作品画像掲載 井村、清水

■デザイン

・湖のスコーレ オリジナルラッピングペーパー 小川翔陽、中尾涼、中川ももこ

・トランクワインデザイン 西橋

- ・CD ジャケットデザイン 熊田
- ・「アート×和菓子 Limited Edition 2024」和菓子数点のパッケージと風呂敷

2024 中尾涼 12/25 甲賀市役所 記者

2025 小川翔陽

- ・年賀状デザイン 田村、中井、西橋、川越、四白、川邊、神山み、井上、大家、池上
- ・ふるさと納税 市長似顔絵 田村、森田、神山み、竹口、池上
- ・ふるさと納税チラシ 田村
- ・家康ウォーキングツアー10/28 オリジナルトートバック 池上
- ・甲賀市ゼロカーボンロゴデザイン 田村
- ・ぽこぼこクラブ チラシデザイン 岡元
- ・めばえ 「みえるみえるよ」絵本 デザイン 西出か、竹口、吉川、水上、關、三井、岩瀬、大家、中川、田村、井野、井上、山根、一木
- ・宗教学者 鎌田東二詩集 カバー 岡元俊雄
- ・英治出版 表紙 宮下幸士
- ・めばえトートバックデザイン 山際正己
- ・ぽこぼこクラブ 描きおろし 吉田陸人

■PR-y

- ・マクロマウロ コラボレーションバック 内田泰代・岡元俊雄・川邊紘子
- ・阪急百貨店1FコンコースPOPUP (9/13~9/19)
 - 3F POPUP (9/13~9/19)
 - 5F POPUP (9/9~9/19) (9/20~10/3)
 - 6F 「地蔵とリビドー」上映会 (9/16)
- ・清春ライブ 9/10 京都劇場 「清春とリビドー」
- ・DISTORTION9 栗田淳一・中尾涼

■芸能人

- ・福山雅治 ライブ 上土橋勇樹 DIS3
- ・SKY-HI 川中 DIS3
- ・清春 live チラシデザイン 吉田楓馬
- ・清春 live ステージ装飾 竹中、森、川中、吉田ひ、吉田ふ、四谷、斎藤、中尾、榎本岩瀬、山根、栗田、中川も、大家、大路、北村

■ヘラルボニー

- ・TRUNK ホテル 描きおろし 吉田陸人
- ・ディズニーコラボ 藤木敦仁・齋藤志保・大家美咲・山根孝文・KANA・鵜飼裕之・勝間陽介
- ・Art in You アートはあなたの中にある！
6/3 (土) アートライブ 東京都千代田区 三井住友銀行本店 アースガーデンイベントスペース
大家美咲・鎌江一美
- ・福島県浪江町の過去と未来をアート作品 栗田淳一・吉田楓馬
- ・ダイキン工業 (株) 東京本社 新オフィスアートパネル 中尾涼
- ・東京都大手町 鉄鋼ビルディングB1通路 空間装飾アートパネル 井野友貴・川邊絃子・田村拓也
鉄鋼ビルディング建物内通路 アートパネル 中尾涼
- ・エイベックスイベント 壁面アートパネル 川邊絃子 (鉄鋼ビルディング同等)
- ・積水ハウス (株) 宮城教育大学 学生寮新築工事用仮囲いアートパネル 宮下幸士
- ・トヨタ・モビリティ基金 サーキット場センサールーム内 額装アート 大路裕也・中尾涼
- ・ターポリントートバック 三井啓吾
- ・東京JR上野駅構内ショッピングモール「エキュート」改装仮囲い
吉川秀昭・大路裕也・田村拓也・岡元俊雄
- ・Eテレ「あおきいろ」×「ROUTINE RECORDS」 酒井美穂子・山際正己
- ・気仙沼ニッティングコラボ セーターにオリジナル刺繍 河合由美子
- ・渋沢栄一財団 渋沢栄一写真に落書き 吉田陸人
- ・L a L a アリーナ壁面装飾
- ・ユニリーバ・ジャパン (株) オフィスリニューアル 川邊絃子・水上詩楽

■映像

- ・織田学園とのコラボ企画「アール・ブリュット×きもの」と「アール・ブリュット×食」
宮下

■アートライブや出張

- ・TRUNK ホテル レセプション参加 田中、吉田
- ・ヘラルボニー「ART IN YOU」大家、鎌江
- ・鵜飼結一朗 作品集出版 6/18 (日) 出版記念パーティー 芦屋市 丸川蔵
- ・鵜飼結一朗 NY Venus Over Manhattan 招待
- ・山際正己 静岡県立美術館 アートライブ

8) 関係団体との連携

例年と変わりなく今年度においても利用者が日常安心して適切なサービスが受けられるよう、個々のケースに応じて医療機関や相談センター、行政及び福祉施設とその都度連携を図り課題解決に繋げた。特にコロナウイルスの感染対策については常に健康状態を把握し感染予防に徹するとともに従来通りの支援の保障を行った。

日中支援のみならず、利用者の家族を含めた包括的な支援や、生活の保障、権利擁護事業や後見人制度の活用についても必要に応じ行ってきた。現在後見人制度を利用している利用者は約5名程度に留まっているが引き続き家庭の状況や必要性に応じ対応したい。

今年度においては施設長を中心に他団体が開催する研修会に参加し、日常の実践への意識を高めるようにした。施設内においても引き続き施設事故・虐待予防対策委員会を開催し、全職員にヒヤリハットの提出を月一回以上義務付け定例会議を行うようにし、各種マニュアルや報告書もより細部の事案に対応できるよう徹底している。(ヒヤリハット件数246件、昨年174件)

体制上平日勤務時間内で開催される圏域のサービス調整会議や各種団体の会議には参加が今年度も難しく、積極的な関わりは困難で出席できない事が多かった。

第三者委員会への申し立て等については今年度も事例がなかった。今後もそうしたことが起こらぬよう利用者と家族の尊厳を何より保障する。

尚、4月1日に全家庭に対し、苦情申し立て及び第三者委員会の概要説明、利用者の著作権及び著作人格権等の意思確認、緊急連絡先の確認、保険説明を例年同様行った。第三者委員には年に一度訪問いただきヒヤリハットの確認や状況説明及び見学案内を行った。

日頃より家庭に対して、各班ニュースやその都度行ってきた事業等の報告は書面をもって積極的に行っている。

やまなみ工房家族会は昨年解散となった。今後保護者及び家族との関係が薄れないよう各種イベント参加をはじめ機会を設けたい。また年間を通し家族には物資販売等の多大な協力を得た。今後も家族の負担が少しでも軽減できるよう引き続き検討したい。

9) 福祉事業サービス

例年同様、通院同行や家庭訪問、電話相談他、朝夕の時間外支援、移動支援など家庭からの要望はもちろん必要性に応じて、その都度体制を整え家庭援助を行ってきた。

また計画相談担当者を中心に突発的なイレギュラーや将来を見据えた様々なニーズに対し調整会議の開催やニーズに応じた各種サービスが迅速に受けられるよう対応してきた。

時間外受け入れについても可能な限り支援し、今後も家族への包括支援としてその都度

慎重に対応したい。

今後も利用者や保護者と連絡を密にし、体調管理や生活基盤について細心の注意を払い、日常安定した生活が送れるよう配慮する。また家庭訪問や連絡帳を通じて連携を密にし、施設長、副施設長、主任を中心に適切な個別対応を行う。

月 2 回の職員会議と合わせ、非常勤職員を含めた月一回の職員全体会議において個別ケースや緊急事例に関して対策を講じ全体で疎通をはかってきた。年間の支援計画については 6 月に個別の保護者面談を行い、活動方針の説明や各家庭のニーズ、個々のアセスメント、フェイスシートを作成し日常の支援に効率よく活かすことが出来た。モニタリングは年二回行い、支援計画等の見直しを行っている。

給食サービスについては、衛生面の徹底的な管理の向上を常に念頭に置き調理を行った。一人ひとりの障害や、健康状態に配慮する中、楽しく美味しく食すことを原則に食事を提供し、利用者にとっては健康を維持し日々の活力となり得る重要な役割を果たしている。衛生面においても徹底管理し今後も安心安全に留意し行う。

送迎サービスについては送迎対応マニュアルを策定し安全について徹底した強化を引き続き行った。また交通安全委員を配備し、より一層安全面を徹底している。今後も各家庭の様々な事情に最大限対応していきたい。(車両事故等については今期 0 件。)

次年度においても月一回(3月・4月を除く)の土曜出勤については原則継続して行う。

健康診断(年一回)や集団歯科検診、インフルエンザ予防接種等、利用者が健康で過ごせるよう配慮を行った。有料での散髪サービスは今後も継続し家庭支援へと繋げたい。

10) 今後の課題と事業展開

やまなみ工房は現在、甲賀市湖南市を中心とした甲賀圏域の障害者通所施設では最も利用者数は多く、定員 80 名に対し 93 名(令和 6 年 3 月 31 日現在)が在籍し、今後も利用希望者のニーズは高まる傾向にある。令和 6 年 4 月には新たに 3 名の入所者を予定しているが利用者とその家族の高齢化、障害の重度化により退所のケースも予想される。

今後も甲賀圏域に関わらず広範囲より利用を希望する事例が予想されるが、現在の職員体制等に配慮し養護学校からの実習をはじめ現利用者に対する支援の低下を招かないよう慎重に進めなければならない。引き続き体制はもちろん給食、送迎等強化を行いながら出来る限り地域課題とニーズに応えたい。今後も利用者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、安心できる時間と空間、そして幸せを保障し、明るく・温かく・楽しく快適に生活ができるように創意工夫を凝らしながら、豊かな人間性溢れる支援を行えるよう物的にも人的にも柔軟に対応し更なる強化に努めたい。どんなに障害が重くても、労働を通じて社会に参加し、生きがいと誇りをもって心身ともにゆたかな暮らしを送れるよう、一人ひとりの利用者やその家族のニーズに対し適切な支援を行い安心して地域で日常生活が送れる事を目指し新たな報酬改定や制度改革に準じた適切な運営を行い、更なる支援強化に努めたい。